

2025 年 8 月号
令和 7 年 8 月 19 日

漁況情報・浜の話題

神奈川県水産技術センター
企画研究部 046-882-2489
相模湾試験場 0465-23-8531
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/mx7/wadai/>



浜の話題

【7月1日】県小釣協議会：総会

7月1日、県内の一本釣り漁業者で構成される神奈川県小釣漁業連絡協議会の第56回通常総会が、県水産技術センターで開催されました。宮川均会長（みうら漁協 正昭丸）のあいさつに始まり、会議では令和6年度事業・決算報告や令和7年度事業計画・予算の承認などが行われました。総会終了後には、県水産技術センター職員から「小釣漁業の重要対象魚種（さば類及びキンメダイ）の資源と漁獲の動向について」と題して情報提供が行われ、出席した漁業者からは資源水準に影響する要因や釣獲物の食害等について質問や意見が出されました。

【7月7日】岩・走水：カキ養殖の視察

7月7日、岩漁協皆木青年漁業士と普及員3名は、横須賀市東部漁協走水大津支所所属 高取丸さんのカキ養殖について視察しました。当日は、高取指導漁業士に、ペットボトルを用いた天然採苗や、実際の養殖筏での育成状況から出荷に至るまで、詳しく教えて頂きました。上手くなれば、ペットボトル採苗で種苗供給が賄えることや、独自に工夫された育成管理方法等、今後カキ養殖に着手する上でとても勉強になりました。



カキ養殖視察

【7月8日】小田原・腰越：マコガレイ種苗放流

7月8日、(公財)相模湾水産振興事業団が、小田原地区と腰越地区でマコガレイ種苗を各5,000尾放流しました。当日は猛暑でしたが、放流した種苗は、元気よく海底に向かって泳いでいきました。

【7月9日】シラス・小底・アナゴ筒：兵庫県の漁業者の視察対応

7月9日、摂津播磨地区漁協青壮年部35名の視察がありました。午前中は、しらすの加工直売

や漁船・漁具について、腰越漁協の木村指導漁業士(加藤丸・しらす協議会役員)を主体に水島組合員(勘浜丸)、水島指導漁業士(勘由丸)にも対応をして頂きました。午後は、横浜市漁協柴支所の小山支所長(やぶたつ丸)と斉田指導漁業士(金亀丸)に、小型底曳網漁とアナゴ筒漁の資源管理の取組等について講演して頂きました。来訪した方々にとって、有意義な視察旅行になったそうです。



兵庫県視察受け入れ当日の様子

【7月8日】走水：海ブドウ

走水の丸良水産、長塚指導漁業士が行っている陸上養殖海ブドウは、今期3年目になります。栄養価も非常に高いもので、ナトリウム・カルシウム・マグネシウム等ミネラルもたくさん入って骨や歯などにも良いとされています。独特の見た目とはじける食感、広がる磯の風味すべてが随一の食材と言われています。毎日手塩にかけて育てて、秋頃まで出荷されます。



枠入れ養殖中



出荷前養生中



出荷選別中

【7月10、15、17日】湘南～西湘地区：マダイ種苗放流

7月10日、大磯二宮・平塚市・茅ヶ崎市漁協で合計55,000尾、15日は福浦・岩・真鶴町・小田原市漁協で合計76,000尾、17日は江の島片瀬漁協で14,500尾を(公財)相模湾水産振興事業団と各漁協が、(公財)県栽培漁業協会により生産されたマダイ種苗を放流しました。どの日も猛暑でしたが、放流したマダイは、元気よく海底に向かって泳いでいきました。



茅ヶ崎市漁協のマダイ種苗放流の様子

【7月17日】長井：トラフグ種苗放流

7月17日、当センターは、長井漁港(井尻地区)において長井町漁協の立ち合いのもと、トラフグの種苗を約1万尾放流しました。種苗は、同漁協の漁業者の協力により採捕された長井産の親魚から生産し、全長約5cm以上に大きく育成したものです。



当センター飼育施設からの搬出

【7月17日】葉山・腰越：マダイ種苗放流

7月17日、(公財)神奈川県栽培漁業協会と(公財)相模湾水産振興事業団は、湘南漁協葉山支所及び腰越漁協立ち合いのもと、マダイの種苗それぞれ15,000尾及び17,000尾を地先岸壁で放流しました。



活魚車の中の種苗



岸壁からの放流(葉山)



岸壁からの放流(腰越)

【7月17日】鎌倉・シラス漁業者：大学の研究に協力

7月17日から、湘南漁協鎌倉支所所属のもんざ丸(前田青年漁業士)が、北海道大学の高木教授の研究に協力しています。研究の内容は、漁具動態解析システムによるシミュレーション結

果をもんざ丸の実際の網で検証するもので、今後継続的に、大学院生2名が漁船に乗り込み、実際の網の動きを計測します。この研究協力は、令和5年11月のしらす協議会の研修会でこの研究を取り上げたところ、教授と前田漁業士が活発な意見交換をしたことがきっかけとなっています。



大学院生による研究の説明



実物の網の説明

【7月18日】柴：トラフグ種苗放流

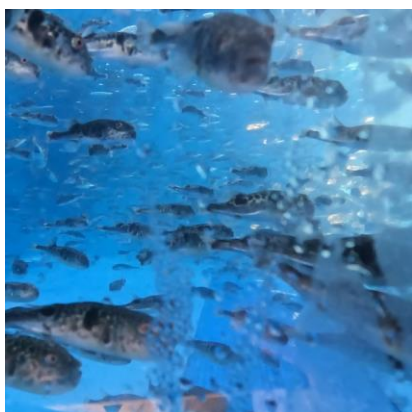
7月18日、当センターは、横浜市漁協柴支所の立ち合いのもと、横浜ベイサイドマリーナにてトラフグの種苗5,000尾を放流しました。年々増加している東京湾のトラフグ、大きく育って、東京湾で水揚げされる代表的な魚種のひとつになることを期待したいです。

【7月19日】小坪：サザエ種苗放流

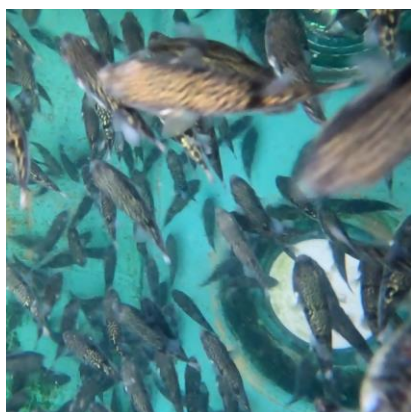
7月19日、(公財)相模湾水産振興事業団は、小坪漁協の立ち合いのもと、サザエの種苗を47,000個放流しました。

【7月29日】長井・佐島：トラフグ種苗放流

7月29日、(一財)横須賀西部水産振興事業団は、長井と佐島の間に位置する小田和湾において、長井町漁協と湘南漁協佐島支所の立ち合いのもと、トラフグの種苗をそれぞれ5,000尾、計1万尾放流しました。



活魚車の中の種苗



漁船の魚槽の中の種苗



小田和湾での放流

お知らせ

はまぐり、サザエ等を採らないでください

海水浴、磯遊び等で神奈川の海に来られる一般の方々には、はまぐり・アワビ・サザエ等の貝類、

イセエビ、タコ、ナマコ等共同漁業権の対象となっている水産動植物を採らないでください。これらを採ると漁業権侵害となる恐れがあります。ほとんどの海域で共同漁業権が設定されており、漁業者は生活の糧として、魚介類を大切に守り育てています。

県水産課

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/docs/yugyo/isoasobi.html>

【8月1日～10月19日】長井～腰越：アオリイカ禁漁のお願い

長井町漁協、湘南漁協佐島支所・同葉山支所・同鎌倉支所、小坪漁協及び腰越漁協は、すべての釣り人の皆様に対して、8月1日から10月19日まで、同地先におけるアオリイカの釣りの禁漁について、ご理解とご協力をお願いしています。

これらの組合では、アオリイカ漁をこの期間に自主的に禁漁とし、併せて産卵礁の設置等を行い、アオリイカの資源保護に取り組んでいます。

遊漁者・遊漁船の皆様

アオリイカ資源保護

へのご協力を
お願いします

実施
期間

8月1日～10月19日

近年、地球温暖化による海水温の上昇に端を発し、アオリイカの産卵に不可欠な、アマモなどの海藻類や、カサメなどの海藻類が消失する、「磯焼け」が全国的な問題となっています。三浦半島近海でのアオリイカ資源が減少傾向にあるため、漁業者では「人工産卵床の設置」「ワニやアイゴなどの食害生物の駆除」などの漁場保全活動を進めています。さらに、三浦半島沿岸3市1町の6か所の漁業協同組合・支所が協働し、下記期間を「アオリイカの自主禁漁期間」と定めました。

遊漁船・貸しボート・カヤック・SUP・岸から等、すべての釣り人の皆様にも、この期間の禁漁へのご理解とご協力をお願い致します。

実施地域

「長井町漁協」から「腰越漁協」までの「共同漁業権内」
(横須賀市長浜海岸から鎌倉市腰越漁港まで)



長井町漁業協同組合 / 湘南漁業協同組合佐島支所 / 湘南漁業協同組合葉山支所
湘南漁業協同組合鎌倉支所 / 小坪漁業協同組合 / 腰越漁業協同組合

協力お願いのポスター